

2018年11月5日  
四国電力株式会社

2018年度第2四半期決算 会社説明会での主な質疑応答

- Q. 中期経営計画の目標達成に向けた感触はどうか。
- A. 小売競争の激化など事業環境は厳しさを増しており、中期経営目標達成に向けたハードルは高まっているが、伊方3号機の安定稼働や、事業効率の徹底改善により、コスト競争力を強化するとともに、非価格面での競争においても工夫を重ねることで、引き続き、目標達成を目指していく。
- Q. 配当水準について、将来的に何を基準に考えていくのか。(配当性向などの基準を設けるのか、引き続き安定配当の維持を基本とするのか。)
- A. 今後も安定配当の維持を基本に考えていく。伊方発電所が3号機のみとなり、その稼働率により年度ごとの利益の変動が大きくなることが想定される中では、定量的な基準を設定するよりも、中長期的な事業環境を見極めながら、安定的な配当を実現していくことが望ましいと考えている。
- Q. 設備投資について、通期および来期の見通しはどうか。
- A. 設備投資額は通期で900億円程度。伊方発電所の特重施設設置工事や西条1号機のリプレース工事への投資などにより、来期以降も同程度の水準が続くとみている。
- Q. 通期業績予想において、燃料費調整制度のタイムラグ影響はどの程度か。
- A. ▲60億円程度とみている。

以上